

家庭医療の特徴（WONCA 世界家庭医機構 ヨーロッパ）

1. 通常ヘルスケア・システムの最前線であり、利用者に対して開かれた制限のない近接性を提供し、その人の年齢・性、その他どんな特徴にも関わりなく全ての健康問題を扱う。
2. ケアを調整し、プライマリ・ケアの設定で他職種と協働し、他の専門分野とのインターフェイスをうまく働かせることによって、必要なときに患者を擁護する役割をとる。これらのことを通してヘルスケア資源を効率よく利用する。
3. 個人、その家族、そしてその人達の住む地域を志向する人間中心のアプローチを展開する。
4. ユニークな診療プロセスをとる。それは年を越えて続く人間関係を築き、医師と患者の効果的なコミュニケーションを通して形成されたものである。
5. 患者のニーズによって決定される長く継続するケアを提供することに責任を持つ。
6. 地域での病気の有病率と発生率で決定される特異的な意志決定過程を持つ。
7. 個々の患者が持つ急性、慢性両方の健康問題を同時に対応する。
8. 病初期で鑑別できていない状態であってもその病気に対応する。中には救急の介入を要するものもある。
9. 適切で効果的な介入によって健康と幸福を増進する。
10. 地域の健康への独自の責任を持つ。
11. 身体的、心理学的、社会的、文化的、そして実存的次元で健康問題を捉える。

家庭医療の定義（米国家庭医療学会）

家庭医療は個人と家族に対して継続する包括的なヘルスケアを提供する医療の専門分野である。その専門性は生物学、臨床医学そして行動科学を統合する広がりを持つ。家庭医療が扱う範囲は、全ての年齢と性、そして各臓器系と全ての疾患が含まれる。